

場合が有る、それは小児の性質如何に依るもので、悪性の小児などは最も注意すべきで、家庭の注意と監督が最も大切である

幼稚園に就きて

佐々木吉三郎

第一 幼稚園の任務

世には幼稚園設立につきて、疑を抱けるものがある其幼稚園は必要であるか又不必要であるかと言ふことを考へるのに家庭さへ理想的に完全にあれば幼稚園は不必要であると言ふが私は之に對して必要であると思はれます、而して其幼稚園は如何なる場合に於て必要であるかと云ふことを考へて見ると先づ其理由は悉くの家庭の子女を入れる爲めに必要であるか又或家庭に限りて必要であるかと言へば私は其或家庭に對して必要だと思ふ、幼稚園は義務教育的になすの必要はない、家庭が

理想通りであつたならば志望者も少いが理想通りにならないから之を補ふ爲めに必要である。家庭に在りては財制上或は職務上又は地位上よりして終日子女の教養に盡粹することが出來ぬことがある。然らば其幼稚園の任務とする所のものは如何と言へばそれは次の如くである、今少しくお話をしてみませう、幼稚園と云ふことは、フレイベル氏の始めたもので氏が之を考へ出したるときはあゝこれほど良いものはないと言つて嬉ばれたとの事であるして字の示せるが如くに物を教へ込む所ではなくて、幼児が自然に有せる性質の表はれ來る其を利用して順當に延ばしてやるだけのものだからこれを教ふるではない。フレイベル氏は、自分は子供に教へるのではなくて兒より習つて之を他兒に告げてゐるだけのことであると言つてゐる。斯くの如く幼児の天賦の性能と其方向とを曲げることなくして直ぐに延ばす之が即ち幼稚園の任

務であつて其任務の中で主なるものを二三あげてみると第一は身體即ち幼児の身體を良く發達せしむることである。

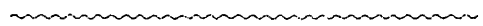
幼稚園に於ては幼児の成績物の善良なるものを出すには及ばぬ幼児が立派なるものを造りて之をほこりとするには及ばぬそれよりも、第一に身體を十分に發達せしめて之を以て理想とすべきである。若し幼稚園児童と家庭の児童とを其身體に於て比較して幼稚園児の方が劣る様のことがあるればそれは大に其幼稚園の耻とする所である。されば幼稚園はよろしく身體の發達を以て第一にすべきである而して第二は幼児の衝動性につきて之をうまく満足させてやらねばならぬことである。子供は何か爲さずには居られぬもので之れが即ち子供の天興の資本であるフレーベル氏は此點につきて大に考られたので之が氏の特徴である氏より以前に於て有名なる教育家はありしも此點には氣付かなかつた斯のコムニース氏の如き幼児には畫を見せよ直觀によらしめよとは言ひしも此の點には未だ氣付かれなかつた。

幼稚園はかくの如く幼児の有せる衝動を見て之をうまく指導してゆかねばならぬ、そして之を満足せしむるには遊嬉手工をなさしむるので之れは即ち保育の案である。

斯くの如く幼稚園は幼児の衝動に基きて子供の氣の向きたる様にすべきで之れが即ち小學校と異なる點である。而して第三は智識であるが幼稚園に於ては之れは極軽く見てよい、之を重く視て多くのことを教へんとするは良くない、而して其幼児の智識を啓發せしむるには、なるべく人間界自然界のことを直觀せしめて以て之を啓發せしむべきである。而して其直觀せしむるものは手近のもので自分で爲したいと思ふて爲すそれ位のものでよい。斯く衝動は内部よりして外部に向つて動けども之れが漸次進めば自ら外部よりして内部に取り入れんとするに至るのである。其直觀せしむるにつきて注意すべきことは、子供には物を直觀せしむるが善いとて何ら子供に關係のなきことを以てする必要はない。なるべく子供に關

係の有ることではなければならぬ、自然物を直観せしむるにても之を兒の心に密接せしむる様にして而して後に直観せしむべきである。例へば狐を教ふるにしても、單に口が如何足が如何と言ふするよりは狐は吾々の如く常に何か考へてゐるものを何か爲さんとしてゐるものである故に身體は斯く便利に出来てゐるのであるといふが如くにして凡て活動的にすべきで子供は又凡て物を活動的に見るものである。

西洋等に於ては凡てのものを之に運動を附して教へて居る、栗を教ふるにしても栗は何故に刺を有せるか之れは柿の實の未熟なるときと同理である栗は自分の親族を多くせんが爲めに斯くの如く實を結ぶので若し之を未熟なる中に取られては困るからそれで近づけば、また取つてはならん取れば刺でさすぞと言ふ印にかくの如きものを有して居る即ち之れが栗の一つの人格となつてゐる。斯くの如くに凡て僞人的にして小供の境遇と密接せしめて教ふれば子供は興を持ちて觀察をなすものである。斯くの如くにして自然物をあたかき情を



以て觀察する、くせを付けるのが良い即ち智識は抽象的に授けずして具體的に直観せしめて得せしむべきである然れども其智識は幼稚園に於ては極軽く見て、只付けたりとして良い、文字を教へ計算を教ふる等の如きことは好ましきとに非ざれば小學校に於けるが如くするには及ばず保育者は智識の注入をせざる様注意すべきである、然れども愛情は十分に之を養ふ可きである。英國の幼稚園に於ては其課目の中に第一に理科を置けるは之れ幼兒をして、自然物と親ましむる爲であるそれで植木鉢等の設けが多い、そして、幼兒に水を注がしめ鳥に餌をやらせなどして居る、一般に英國は自然物に對する愛情を喚起せしめんとするに盡力してゐるのである。

之れは幼稚園のみならず凡て自然を取扱ふ方法を他の教科書等にも入れてある。日本の小供はこの自然物と親しむといふことがうすい大人に於ても然りである。むしろ自然物を敵視せる様な風がある。獨乙等に於て市中に數多の馬を見るに、つなげる馬を見ぬ然れども馬と馬との喧嘩もなければ

ば又人も非常に之に親んでゐる、動物園等に行くにも、よく動物にお土産物を持つて行くなど凡て動物を愛護してゐる、巴里の雀爺さんの如きは、野生の鳥に餌を與ふことを以て樂としてゐるの、で爺さんが野に行けば何處よりか野生の鳥は集り來りて其身體に止まりて樂しげにしてゐる又公園等に至りてベンチによれば小鳥は餌をほしげに人のそばに來る、斯くの如くに日本に於てもありた

きものである。されば幼稚園時代よりしてこの習慣を養ひたきものである。

日本は天然の恩恵に浴すること多きが爲めに自然物に對する愛情が乏しいのであらうか、西洋の小供は錢を貰へば直ちに運動を買求める。第四は社交上の道德心養成であつて之れは幼稚園では教へ込むのではなくて衝動を整理して以て道德の基礎となるものを養ふべきである。

第二、幼稚園と小學校との連絡
此問題につきては西洋に於ても四十年來の問題となつてゐるのであるが幼稚園の方からは、小學校

は幼稚園に於て爲したる糸口をこはしてしまふ、小學校は幼稚園を基礎として其上に置けばよいと言ひ、又幼稚園は小學校の豫備をしてくれ、ばよといふ、斯くの如くして幼稚園と小學校との連絡は誠にむづかしいもので容易に決行すことが出來ない。

子供は順當に發達するには如何なる時期を經過するかと言ふことにつきて研究したる人があるが、即ち幼稚園教育は如何なる時期に於て受くべきであるか、又小學校は如何なる時期に於て受くべきかと言ふことを考ふべきである、獨乙の或學者は之につきて言へることがある、小兒は第一、母の膝下に在りて發育する時期(満一歲)第二適當の室を與へらるれば之れによりて發達する時期と(満三歲位迄)此時代は幼兒委託所に入る時期である、第三は幼稚園に入るべき時期とあり而して後小學校と幼稚園との中間に位する時期ありて之れ等の時期を經過して初めて小學校に入る時期が來るのである、西洋では大抵一家に小兒室があるが日本では之れがない。而して其幼稚園と小學校と

の中間に位するものは之れはフレール氏の考へしもので氏は幼稚園と小學校との間には一個の溝があるからそれを取除かん爲めにとて之を設けたのである、然し之れは私は不必要と思ひます、ともかくも、以上の如く種々の時期あるによりて家庭のみに於てなすもよけれども又幼稚園に出す必要もある。

然るに其幼稚園と小學校との相争ふ原因は幼稚園は其主點とする所のものは幼稚なる小兒其ものにありて小學校では、材料を教ふる之が主點である故に其關係よりして相争ふに至るのである。

私の考へでは、此問題につきは斯の中間學校の如きものは之を廢して幼稚園を學校系統の中に入れて幼稚園を出發點として以て諸種の課程を定めたならば幼稚園と小學校との關係がうまくゆくだらうと思ひます、故に小學校に附屬幼稚園を設立したきものである斯くするときは色々の利益がある先づ第一は世の一般の教師が幼兒に對する手心を知らぬ然るに幼稚園を附屬として設立すれば之れを知ることが出来る又一つは家に於て幼兒を

幼稚園に入れたいと思ふときに小學校に附屬のものがあれば思ふまゝに入園せしむることが出来るから非常に便利である、それで私は將來之を説立する様に希望する。

幼稚園の種類

幼稚園を幼兒の性質上より區分すると二つある第一は貧民に對する幼稚園で第二は貧民ならざるものに對する幼稚園である、獨乙に於ては、ポルクスキンダーガルテン、とて庶民幼稚園といふものがあつて之を設立する様獎勵して居る之れ即ち貧民に對する幼稚園である。

又多少良き家庭に對しては、ミリンダー、ガルテン、とて幼稚園的のものがある、我國に於てもこ庶民幼稚園を多くしたき考であります、されば之を設立する考を以て各小學校に附屬の幼稚園を設立すればよい。

又設立者の種類によりて區分すれば第一家族幼稚園之れは獨乙に多く設けられるれども良きものに非ず、第二は若き婦人等の設立せるもので之れは設備が不完全である。

第三は會立の幼稚園で之は貧民に對しても良い、伯林等に於て、フレーベル會の設置せる會立幼稚園は六つあつて内三個は貧民に對するものとなつて居る、第四は工場こうじやうの所有者しやうしやうしの設立せるもので其工場に通へる人の小供こどもを入れるので一園に千人を入れるだけの廣大なるものが獨乙等には有る、第五は市立の幼稚園で獨乙等に於て之の種のもものが多

第六は國立の幼稚園で之は、オーストリー、スイツ等に在るのであるが、吾人の希望するのは第五の市立又は町村立の幼稚園である、私立のものは理想とするに足りない。

各國幼稚園の状況

獨乙の幼稚園事業中に於て吾人の學ぶべき點は、第一貧民に對する幼稚園、第二は保母の養成である。之れ等は必要なることで日本に於てもなしたることである。保母養成には獨乙は二課あつて一つは一年の課程で高等女學校卒業生を入學せしめ今一つは高等女學校卒業以上の高き程度のもを一ヶ年半位學ばしめて以て高き資格を作らしむ

のであるが之は理想的の程度ではない。

第三は男女教師及母に對しての幼稚園講習會のあることである。これは五十年前より行はれつゝあるのである。

成績も良きとのことである。

英國の幼稚園に於ては第一幼兒を自然物と親しましめ以て其愛情を養成する之れが十分に出來てゐる

第二は貧民に對する幼稚園事業であつてこの慈善事業は大に盛になりて却て中流社會の人の生活に苦むが如き有様であるといふ。

第三は保母養成法で之れは高等女學校卒業者に對し滿十七歳以上のものを入學せしめるので尋常科と高等科との別がある

佛國に於ては紀元千八百八十年以後幼稚園は學校系統の一と見るに至つた。母親學校といふものありて三歳より六歳迄の幼兒を入れて居る而して、フ

レーベル氏の考と同じく小學校との間に媒介の學校があり若し幼稚園もなにもなければ滿五歳より入らしめてよしとしてある。中間學校在るときは滿八歳にてうけとる、巴里は二十區に分れ其一區に十八位の幼稚園があつて殆ど小學校と同數位

である。
巴里に於て千九百年に幼稚園事業のために出資したる金額は二百九十萬フランである。而して幼稚園長は百九十人位で随分盛である。

幼稚園改良法

現今の幼稚園は大に進歩したけれども尚西洋に於ても亦日本に於ても幼稚園に於てする仕事は不自然ではないかと言ふうたがひがある。

然ではないかと言ふうたがひがある。大聚の幼児を取扱ふ上よりしては自ら種々の方法が行はれる、それを世人が見て不自然ではないかと言ふてゐるが、然し自然論者は何時も一種の弊

がある。
幼稚園は出来る限り自然的でなければならぬ、然し之をするには其設備がよくなければならぬ、其設備が悪しければ自然的には出来ない、之れは設計者の大に注意すべきことである、かの廣き庭を

有するときは此處に於て小兒は自由に遊ぶことが出来るが其設備がなければ小兒は自由には出来ない。之れは設備の罪である。

極寒雨天の外はなるべく外に在りて遊ばしめ、そ

れには、腰掛等の如き之を小形にして置けば之を外に持ち出すことが出来るから又便利である。

而して幼稚園保母は案をむつかしく立つるには及ばぬ只臨機應變の所置をよくせねばならぬ、幼稚園の調子は愉快にある様にすべきである。而して

幼稚園に於て教へ過ぎる様のことかありはせぬか、中には考への足らぬものは算を教へ文字を教ふるものが無いでもないが幼稚園では複雑なるものを教へるには及ばぬ複雑なるものを教ふるには又時期がある。幼稚園に於て複雑なる遊嬉等を教へて喜べるは之れは幼稚園として價値あるもので

はない。
幼稚園に於てはなるべく神經を使はぬ様外にありて自由にすべきである日本人は一般に神經過敏殊に東京人は又一層で尙東京に於て上流の家庭に於ては又過敏である。

斯く神經過敏にこそしくしたるものでなくて、ユツタリとしたる人となさねばならぬ。

小學校に於て幼稚園より來りし子供は社交上の智識ありて教師に親むも一學期よりは二學期三學期

となるにつれて美なりしものが良となり可となる
之は即ち幼稚園の關係の有ることで幼稚園時代に
物をチヨク〜と教へ過ぎるからではないかと思
はれる。

幼稚園を経たる小兒は身體の發育の著しきを以て
ほこりとすべきである。かの早熟せしむるといふ

ことにつきては大に注意すべきであつて神經を刺
戟せずして身體を發育せしむべきである、手指、

聽覺の練習なりとて種々のことをなすは其程度を
考ふべきである、子供には小さきことをなさしむ

るよりは大きなことを爲さしむべきで室内で豆細
工をなさしむるよりは庭に出て蟬をとらする方が

よい。
日本人は大に身體の發育を必要とするので幼稚園

に於ても之を第一とすべきである。
幼稚園は最初よりして梅花の美しきものを咲かし

めず野生的に發育せしめ、最後に於て立派なる花
を咲かしむべきである。

鷹揚なる人物をつくるべきである。
而して將來に於て貧民に對する幼稚園が出来たら

ば午食牛乳等を與へる様にしてほしいものであ
る。

幼稚園事業をして發達せしむるには國家が注意し
て保母の養成といふことに注意するの必要がある

又小兒の性質を學問的に研究する又社會にありて
も幼兒教育事業を大に獎勵すべきである。(終り)

子供の臆病

倉橋惣三氏談

▲子供は皆臆病 坊やは何故斯う弱虫だらうとお

父様が嘆息すると、さう言ふ人も子供の時分は、
矢張り臆病だつたと、祖母様が笑ふ、私が今此様

な事をお話するのを、母親が聞いたら、定めし笑
ふだらう、實際私も子供の時は非常に臆病で夜

などは到底、獨りで外へ出られなかつた、併しこ
れは諸君も同様、共通の性である、決して可笑し

いものぢや無い、
▲子供の怖がる物 其處で先づ、子供の怖がる物